

2024年度

S 5

小 論 文

2月25日(日)

情 報 学 部 (情報社会学科)

9 : 30 ~ 11 : 30

【前期日程】

注 意 事 項

試験開始前

- 1 監督者の指示があるまで、問題冊子、解答用紙、下書き用紙に手を触れてはいけません。
- 2 監督者の指示に従って、全部の解答用紙(3枚)に受験番号を記入しなさい。

試験開始後

- 3 この問題冊子は、5ページあります。はじめに、問題冊子、解答用紙、下書き用紙を確かめ、枚数の不足や、印刷の不鮮明なもの、ページの落丁・乱丁があった場合は、手をあげて監督者に申し出なさい。
- 4 解答は、すべて解答用紙に記入しなさい。(下書き用紙と間違わないよう十分注意してください。下書き用紙は採点対象となりません。)
- 5 文字数制限のある解答用紙の記入については、下記の点に留意すること。

- ・書き出しは、一マスあけない。
- ・改行後は、一マスあけない。
- ・句読点は、それぞれ一マス使う。行の末尾については文字と同じ一マスに含める。
- ・小さな文字「っ」「ゃ」「ゅ」「ょ」はそれぞれ一マスで使う。
- ・英数字は一マスに2文字入れてよい。

- 6 問題は、声を出して読んではいけません。
- 7 配点は、比率(%)で表示してあります。

試験終了後

- 8 問題冊子と下書き用紙は、必ず持ち帰りなさい。

1

近年、自然災害が多発しており、市民の防災意識を高めるため、さまざまな形で情報が発信されるようになってきた。表1は、内閣府「防災に関する世論調査」(令和4年9月調査)における結果の一部である。この調査は、防災に関する国民の意識を把握することを目的としたものであり、防災情報に関する調査項目には、表1に関する設問のほかに、ハザードマップなどの日頃の災害対策について充実してほしい情報に関する設問や、震度・雨量・特別警報などの災害発生時に充実してほしい情報に関する設問がある。

現代の防災情報の受信および発信に関してどのような特徴があり、防災対策にはどのような課題があると考えられるか。都市規模や年齢に着目し、具体的なデータから読み取れることを説明しながら、あなたの考えについて600字以内でまとめなさい。

(配点40%)

表1 防災に関する知識や情報を入手するために積極的に活用したいもの
(回答が多かったもの上位8つ・複数回答)

著作権の関係上、公表しません。

出典：内閣府「防災に関する世論調査」(令和4年9月調査)

注：本表は、「あなたは、防災に関する知識や情報を入手するために、今後どのようなものを積極的に活用したいと思いますか。(〇はいくつでも)」の回答結果から加工して作成したものである。設問における選択肢は、「テレビ/ラジオ/新聞/雑誌・書籍/国や地方公共団体などのパンフレット/防災訓練/防災に関する展示会・講演会・セミナー・シンポジウムなど/防災情報のホームページなどの情報/防災アプリなどの情報/Twitter(現X), LINE, FacebookなどのSNSの情報/地域の会合/防災ボランティア/勤務先/家族・知人」の14項目である。「都市規模」の区分について、「大都市」は東京都区部, 政令指定都市, 「中都市」は人口10万人以上の市, 「小都市」は人口10万人未満の市, 「町村」は町, 村である。

備考 * : 「Twitter(現X), LINE, FacebookなどのSNSの情報」

** : 「防災アプリなどの情報」

*** : 「防災情報のホームページなどの情報」

**** : 「国や地方公共団体などのパンフレット」

2

次の文章は『「覚える」と「わかる」 知の仕組みとその可能性』(信原幸弘著, 筑摩書房, 2022年)の一部です。よく読んであとの問いに答えなさい。なお, 問題作成のために文章を一部改変しました。

(配点 60%)

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

著作権の関係上、公表しません。

- 問 1 「暗記していれば、理解していなくても、情報は無意識のうちにいわば「整理」されていく」について、著者のいう「整理」とはどのようなことか。検索とのちがいを指摘しつつ 200 字以内で説明しなさい。
- 問 2 インターネットで情報検索できる時代になっても、「暗記にはまだまだ重要な価値が残されている」と著者は述べている。あなたは検索と暗記をそれぞれどのように理解し、また、どのように生かしていきたいか。あなたの生活や学習経験のなかから具体的な例を挙げつつ、400 字以内で述べなさい。

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文（前期日程試験：令和6年度） 1/2	問題番号	S5
対象学部・学科(課程)等	情報学部（情報社会学科）		
出題のねらい	<p>1</p> <p>現代日本では、自然災害が多発しており、いのちを守るための防災情報の受信・発信の在り方の検討が重要な社会的課題となっている。その現状について、都市規模や年齢に着目しながら、世論調査の結果を読み取る力を問うことが本設問の第1のねらいである。また、これらの結果から、防災情報の受信・発信にどのような課題があるのか、具体的な社会的課題を理解し提示する能力、すなわち問題発見能力を問うことが本設問の第2のねらいである。この点に関しては、情報社会の課題とも関連して議論を展開する能力にも期待している。</p>		
採点基準 (点数は200点満点の場合)	<p>1 (配点40%) (80点)</p> <p>小論文の作成にあたっては、与えられた表1を正しく読み取ることが求められる。まず、表1は世論調査においてどのような設問に対する回答であるのかを、設問文及び表1のタイトルや出典情報から理解する必要がある。その上で、回答結果について、回答全体の傾向はどのようなものか、都市規模や年齢によって回答の傾向があるのか、挙がっている項目、順位並び、回答のパーセンテージに着目する必要がある。その際には、世論調査の設問における選択肢はどのようなものがあるかを確認した上で検討する必要がある。</p> <p>資料問題は、まずは初歩的な分析でかまわないので、資料に即して分析し、一つ一つ丁寧に記述することが求められる。また、個人的な知識から離れ、資料から読み取りうることのみを記述することが重要である。</p> <p>(1)世論調査の結果について、全体的な傾向について言及できているか。 (2)世論調査の結果について、都市規模別に比較した際のデータの特徴の有無について言及できているか。 (3)世論調査の結果について、年齢別に比較した際のデータの特徴の有無について言及できているか。 (4)世論調査の結果について、いずれの集計においても回答が少なかった項目について言及できているか。 (5)防災に関する知識や情報の入手のために積極的に活用したいものとして「SNSの情報」や「ホームページ」「防災アプリ」といったデジタル媒体が上位に挙がる傾向が見られるが、そこでの利点や欠点について論じているか。 (6)防災情報の受信・発信に関する現代社会の課題について論じているか。</p> <p>表から読み取れることが多いため必ずしも上記すべてを満たす必要はないが、限られた字数のなかで、状況把握から問題発見まで一貫した論理展開ができているかについてみる。</p>		

採点・評価基準(具体的基準)

教科・科目名	小論文（前期日程試験：令和6年度） 2/2	問題番号	S5
対象学部・学科(課程)等	情報学部（情報社会学科）		
出題のねらい	<p>②</p> <p>情報を暗記することと検索することの違いを論じた課題文を読み、著者の主張を正確に読み取りつつ、暗記された知識とインターネット検索による知識の利用について、自分の経験に引きつけながら、自ら考える力そしてその考えを適切に表現する力を問う。</p>		
採点基準 (点数は200点満点の場合)	<p>② (配点60%) (120点)</p> <p>問1 高校で学習する「現代文」を応用し、本文全体を要約する能力があれば解答できる。著者の主張を正確に理解し、それを的確に説明することができていること。著者は、インターネットにおいては情報がただそのまま蓄えられているだけであるのに対して、暗記においては無意識のうちに情報どうしのつながりが生まれてくるとして、インターネット検索と暗記との違いを指摘している。こうした違いを、情報の整理のされ方の違いとしての的確に説明していることが求められる。 (20%) (40点)</p> <p>問2 問1が問2の誘導問題になっている。(1)インターネット検索と暗記を著者の定義に即して理解していること、(2)それに即して自分の経験のなかから適切に関連するものを取り出し、的確に記述する能力の2点が問われている。 インターネット検索と暗記された情報の活用との区別についての著者の考えをどのように受け止め、評価するのか。また、こうした考えを踏まえて、自分自身としてはインターネット上の情報にどのように接していくべきと考えるか。自分自身の経験に引きつけつつ考察することが求められる。またこうした考察を通じて、論理的思考力、情報社会に関する意識や知識、観点の独創性や的確さを評価する。 (40%) (80点)</p>		